

帯広市の縄文遺跡・文化を核心とした
新たな観光振興事業について



帯広の文化と観光を考える会

帯広市は、三方を日高・大雪・白糠丘陵に囲まれた豊かな十勝の大自然の中で、縄文文化と農業開拓の歴史・文化などの、多様な産業に育まれた十勝の核の田園都市として発展を続けています。

いま新しい観光資源として、八千代地区の埋蔵文化財（縄文遺跡）の更なる調査を行い、展示・保存を心がけ、さらには学習・教育施設等を整備すること、日高山脈の国立公園化に伴い、周辺の観光資源やアクセス道路網の整備をして、帯広市の観光関連イベント等との連携や協力を求めて、市民が楽しく参加できる環境整備を行うことではないかと考えます。

1. 帯広市には縄文遺跡が眠っている

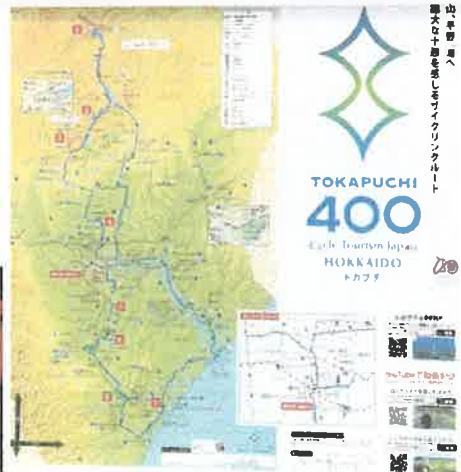
帯広市に点在する縄文遺跡、特に八千代・拓成地区の縄文遺跡の希少価値を認識し、調査・保存をして、学習・観光のツールとして行きたい。

2. アウトドアから「アドベンチャートラベル（AT）」へ

十勝の大自然との関連もあり、アドベンチャートラベルの出発点となりうる魅力のある、地域観光資源としても期待される。

3. 帯広十勝と日高との新しい連携

縄文遺跡の歴史・研究・文化を掘り起こすことにより、日高管内との交流が広がれば、両地域の観光発展にも効果が期待できる。



山手町 山手町へ
帯広市 山手町へ

帯広市の八千代縄文遺跡の全般配置

